

李久惟著 Joe Lee

本当は語学が得意な日本人

Forest
2545
Shansya

はじめに

「日本人は語学ベタ」は真っ赤なウソである！

本書をお手にとっていただき、誠にありがとうございます。ご紹介します。

本書のタイトル、「本当は語学が得意な日本人」を見て、正直、「ホント!？」と思われているのではないのでしょうか？

あなたがそう思われるのも無理ありません。

日本人は英語コンプレックスで、中学校、高校、大学と英語を学習しているのに、ぜんぜん外国人と話せない……。街には、英会話教室の看板やポスターが溢れかえり、社会人になっても、英語学習にお金と時間を費やしている割に語学力はなかなか……。

そんなイメージが刷り込まれています。

しかし、そんなイメージは本当に正しいのでしょうか？ 果たして日本人は、昔から語学が苦手なのでしょうか？

もし日本人のDNAに、「語学が得意である」と刻み込まれていたとしたら、どう思いますか？

そして、多くの日本人が語学が不得意だと感じているのは単なる思い込みで、能力が眠っているだけだとしたら、スイッチをオンにしたいくありませんか？

申し遅れました。私は台湾出身の李久惟（ジョー・リー）と申します。20歳のころに来日し、東京外国語大学で学びました。

現在は、日本で、15言語以上を話す、通訳翻訳者、マルチリンガル語学教師として活動しています。

15言語？ 信じられない！ いや、海外育ちの人なら当たり前……。

そんなふうに思われるのでしょうか？ 実は、語学習得には、《あるコツ》があり、そのコツさえ押さえてしまえば、1つの言語をマスターするのも、4つも5つもマスターするのも、変わりはないのです！

私はそのコツを、地球上すべての言語に共通する【ダ・ヴィンチ・コード】と呼んでいます。

例えば、ヨーロッパの人たちは、それぞれ母国語が似ているから、お互いの言語を習得しやすい、といった話を聞かれたことがあると思います。それに近い話だ、と

現段階では思っていてください。

一方で、日本語は独特だから語学習得において不利である、といったことも聞かれたことがあるでしょう。

いえ、それが、日本語でも変わりがない、むしろ、日本語だから余計に習得できる、と言ったら？ どうですか？ 気になりませんか？

このコツさえ習得してしまえば、日本語を話す日本人には、他の国の人と比べて、語学をマスターするうえで、圧倒的なアドバンテージがある、これが、私が本書を通じてあなたにお伝えしたいことです。

第1章では、「日本人が語学の天才であるこれだけの理由」と題して、日本語を話す日本人が、いかに語学習得に有利であるかということと、語学堪能な日本の先人の例をご紹介します。

第2章では、「どうしてマルチリンガルが存在するのか？」と題して、15か国語を解する私のようなマルチリンガルがなぜ存在するのか、マルチリンガルの頭のなかはいったいどうなっているのかということをお伝えします。

第3章では、「地球上の言語に隠された『ダ・ヴィンチ・コード』」と題して、いよいよ、マルチリンガルだけが知っている、世界中の言葉を習得できる秘密についてお話しします。

第4章では、「世界の言葉とつながる日本語」と題して、日本語に秘められた豊かな可能性についてお話しします。

第5章では、「マルチリンガルができるまで」と題して、私自身がどうやって15もの言語を身につけてきたのか、お話しします。

「どうして日本人は語学が得意だと言うの？」

「私でも外国語ができるようになるの？」

そんな疑いの気持ちをもったままで結構です。

本書を読み終えたとき、きっとあなたは、自分自身に内在する大きな可能性に気づくことになるでしょう。

ぜひ、気軽に読みはじめてみてください。

マルチリンガル語学講師

李 久惟

目次

はじめに	2
「日本人は語学ベタ」は真っ赤なウソである！	

第1章 日本人が語学の天才である これだけの理由

日本人のDNAは語学が得意!?	16
●日本の近代化の礎となったマルチリンガルたち	
日本人の留学好きは古代から	17
天才・空海の驚くべき語学力	19
アジアにはリトルトーキョーがいっぱい!	20
タイの王女と結婚した日本人	21
●語学堪能な日本人町頭領・山田長政	
鎖国時代、江戸の町は語学の達人だらけ	23
●翻訳力に長けていた蘭学者・高野長英	
●東西の医学に精通していた医師・蘭学者の緒方洪庵	
語学力を武器に漁師から歴史上の人物に	25
●日本で初の英会話教本を著した、ジョン万次郎	
●幕末に生きた十数言語を操るマルチリンガル・音吉	
海外経験なしに6か国語マスター	31

●漢学・蘭学、そして英語が堪能な山本覚馬	
●医学専門レベルの語学の天才・司馬凌海	
●日本の茶の心を英語の本にした岡倉天心	
はじめて英語でスピーチした日本人って？	35
江戸時代の駅前留学	36
●はじめての外国・外国語研究の学校、蕃所調所	
東大の授業はすべて英語で行なわれていた!?	36
語学業界では女性たちが大活躍	38
巧みな語学で台湾を近代化	40
●台湾近代化の父・後藤新平	
●国際連盟事務次長までも務めた新渡戸稲造	
●チームワークで台湾近代化に貢献	
●東洋一の大水利事業を完成させた偉人・八田與一	
無数いる日本の「有名な巨人・無名の巨人」	50
「本気のスイッチ」を入れよ！	51
マイナスな思い込みをはずせ！	52
心と言葉と体の密接な関係	53
日本人に潜在する無限の能力！	54

どうしてマルチリンガルが存在するのか？

マルチリンガルは脳が特別？	56
世界のマルチリンガルたち	56
日本のスーパーマルチリンガルたち	58
四十数言語を操るNYの日本人開業医	59
50言語をマスターした秘密	60
マルチリンガルの頭のなかはどうなっているの？	61
語学は才能か？ 誰でもできるものなのか？	66

地球上の言語に隠された 「ダ・ヴィンチ・コード」

すべての言語には共通点がある！	70
音のはじまりは「宇宙のはじまり」	71
「言葉・音」に隠されたつながりの秘密	72
DNAに隠された「ダ・ヴィンチ・コード」	73
人類は言葉とともに生まれた	76
古代人は音素にイメージをあてていた！	78
なぜこんなにも言語が多様化したのか？	80
最新の語学研究でわかること	81
音素って？	83
● 1つの音素で意味をなす例	
● 2つ以上の音素の組み合わせ	
音が同じなら意味も同じ？	88
「音素」でつながる重要な言葉	96
● 「n」に共通した否定のイメージ	
● 「n」または「m」の音をもつ「名前」のイメージ	
● 「s」の音素に見られる「塩」を意味するイメージ	
● 「火」の意味を表すイメージ	

世界の言葉と つながる日本語

日本語の豊かな「語彙と表現」	104
虫の音さえも詩情豊かに	106
江戸の教育水準は世界最高峰	108
言葉のレベルがそのまま思考のレベルになる	109
他国から一度も支配されなかった「日本語」	110
たった1色に100種類の表現がある！	112
遊びながら言葉を増やしてきた日本人	114
音素も遊びながら身につけられる！	115
● 「s」の「速さ・早さ」を表すグループ	
シンプルに考えればそれでよし	118
イメトレで脳を鍛える	122
そもそも言葉は遊びのように増えていた！	123
自然をそのまま写しとってきた日本語	124
世界中の言葉とつながる「日本語」	127

日本語と英語の不思議なつながり	133
●前置詞・接続詞	
●数字(十、百、千、万などおおまかな数に限る)	
●音素「m」	
音素を使えば記憶がぐんと定着する	140
どのくらいの時間で語学を習得できる?	142
マルチリンガルはなぜ多言語を覚えられるのか?	144
マルチリンガルの学習法には共通点があった!	145
語学習得にとって大事な7つのポイント	146
語学ができない「本当の原因」	147
これで「本気のスイッチ」が入る!	148
●まずは書き出すこと!	
●目標設定の内容の書き出し	
●「学びを習慣にする」ことの大切さ	
「工夫した人」は忘れない	152
●脳は忘れっぽい	
どうしたら覚えられるか?《記憶と工夫》	153
「単語・フレーズ」のコレクターになれ!	155

「マイノート・マイテキスト」をつくる！ 156

- 頭のなかの独り言を外国語に！
- 「自分の語録」をメモする！
- 「マイストーリー」を外国語に！
- 自分の専門と趣味分野を外国語で！
- 学んだことは整理！
- グループ化して覚える！
- 「知ってるもの」と「知らないもの」を組み合わせる！
- 五感をフルに活用！
- リーディングの場合
- リスニングの場合
- 「単語・フレーズ」をイメージ化

語学を学ぶとなぜか母国語の理解が深まる 162

留学・ホームステイはどう？ 163

ネットで語学を学んで？ 165

マルチリンガルが できるまで

「言葉」が最大のコンプレックスだった	168
子どものころは「言語遅滞」.....	168
最大のコンプレックスが「最大の強み」に	171
運命の出会い	173
「学ぶコツ」よりもずっと大切なこと	176
どうして多言語を学ぶのか?	177
一生錆びない脳になる	180
言語の数ではなく、なんのために学ぶのか	182
語学で開く「新しい扉」.....	183
おわりに	187

第 1 章

日本人が
語学の天才である
これだけの理由

日本人の DNA は語学が得意!?

◎日本の近代化の礎となったマルチリンガルたち

1854年、長きにわたった鎖国を解き、西洋文化を取り入れはじめた日本。乾いたスポンジが水を吸収するように、日本は、医学や科学技術をはじめとした多くの学問や技術をわがものとし、大きな発展を遂げました。

もちろん、先人たちはみな、語学はゼロからのスタートでした。学び方も、どうしたら「目標・夢」が叶うのかもまったく知らず、「世のため」に、「心（志）1つ」で挑戦し、たゆまぬ努力をつづける生き方をしていたという点に、私は感動を覚えます。

幕末・明治時代以降、西洋から学んだ「現代の医学・科学技術」などの多方面にわたる分野の用語は、こうした近代化する過程のなかで、多くの日本の先人たちによって、造語として「意識・翻訳」されました。そのなかで漢字にされた用語は、大量に中華圏へ逆流しました。

清の末期に日本に留学した当時の中国人留学生たちが学んでもち帰ったり、台湾・旧満州（中国東北）を経由したり、多くの日本生まれの用語が、現代中国語のなかにそのまま借用、または修正されたのち、使用されてい

ます。先人たちの努力の結果が、現代中国語の発展と連動して、その後の中国の近代化や経済の発展にも大きく寄与したのです。

日本人の留学好きは古代から

意外と知られていませんが、「留学・外国語学習」の歴史は、日本ではかなり古くからはじまっていました。古来よりさまざまな新しい「知識・技術」が、海を越えて海外への留学によってもたらされました。

当時から日本の先人たちの語学力には目を見張るものがありました。留学の第1歩は当然、「言葉の壁を乗り越えること」です。単に「その国の言葉の習得」だけではなく、「伝統・文化・制度・技術」などを含めた、「広範囲にわたる学び」であるべきですが、日本はそれができていました。

古代の日本では、6世紀末ごろからすでに、遣隋使^{けんずいし}や遣唐使といった、中国への留学生の積極的な派遣がはじまり、外からの新しい「知識・技術」の吸収が、熱心に行なわれていました。遣唐使とともに派遣された著名な人物としては、奈良時代は吉備真備^{きびのみまきび}・阿倍仲麻呂^{あべのなかまろ}らがいます。平安時代に入ると、短期間の留学が主流になりました。この時代に活躍した天台宗の開祖の最澄、真言宗^{さいちょう}（密教）の空海^{くわかい}も、唐で学びました。中世の12世紀で

は、南宋なんそうとの交流が盛んになり、仏教への関心も高まり、重源ちゅうげんや栄西えいさいら各派の僧が相次いで南宋に留学、その後の日本での新宗教活動に大きな影響を与えました。

14世紀初頭には、幕府政権とは直接関係のない留学を行なう僧の渡航が増え、僧たちの留学は最盛期を迎えます。この時代は禅などを学ぶ者が多かったようです。

江戸時代以降は長崎の出島を通じて、鎖国のあいだも海外からの学問や科学が入ってき、その1つとして蘭学らんがくがありました。幕末には、外国への本格的な留学がはじまり、幕府はヨーロッパ諸国えのもとたけあきへ榎本武揚さわたろう・沢太郎ざえ・左衛門もん・赤松則良あかまつのりよし・内田正雄つだまみち・田口俊平にしあまね・津田真道つだまみち・西周にしあまね・伊東玄伯いとうげんぼく・林研海はやしけんかいなどの優秀な人材を留学生として送り込み、また長州や薩摩などの諸藩も独自にイギリス・フランス・アメリカなどの各国へ留学生を送りました。

江戸時代のおもな留学生としては、ほかに、井上馨いのうえかおる、五代友厚ごだいともあつ、伊藤博文いとうはろひ、福沢諭吉ふくざわ ゆきち、渋沢栄一しぶさわ えいいち、益田孝えきだ たかひさらがいます。

明治時代になると、明治政府は国策の1つとして留学を重要視し、おもに海外の進んだ「司法制度・行政制度・教育・文化・土木建築技術」を学ぶために留学生を派遣、海外からも教授や技術者しやうへいを招聘し、国際的に通用する人材の育成に力を入れました。

明治時代、留学生として海外渡航した者は、全体で約

2万4700人に達するとされています。

なかでも有名なのが、なか えちようみん 中江兆民、もりおうがい 森鷗外、なつめ そうせき 夏目漱石、
うちむらかんぞう 内村鑑三、つ だうめ こ 林忠正、おおやますてまつ 高村光太郎、さいおん じきんもち 津田梅子、たかはしこれきよ 大山捨松、
こむらじゅたろう 西園寺公望、こむらじゅたろう 高橋是清、こむらじゅたろう 東郷平八郎、こむらじゅたろう 小村寿太郎など
 で、実にそうそうたる顔ぶれです。

天才・空海の驚くべき語学力

平安時代の名僧・空海（774～835年）は、標高1000メートル前後の天空の聖地、紀伊の国・高野山を開創しました。空海は803年に唐に赴き、わずか2年で密教を習得し、帰国しました。2年の間に、当時の中国語のみならず、ほんご 仏教經典の梵語（サンスクリット語）をもマスターしたと言います。過去と現在においてもなお、ご本家中国の書道家でもなかなか真似ることが難しいとされる「おうぎし 王羲之の書」をも習得したとされる空海は、日本の歴史上の多才な偉人の1人です。

また、平仮名・カタカナは空海が発明したという伝承もあります。

もちろんこれは諸説ある話で、すでに奈良時代からつくり、使われているとも言われていますが、空海のもっている語学力と「学識・知恵」からすれ



空海